

様式第2号（政務活動実施報告書）

令和5年 5月 29日

井原市議会議長
三宅 文雄 様

井原市議会議員 柳井 一徳

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

1. 実施期間	令和5年5月19日（金）～5月20日（土）
2. 研修会等の開催地 または視察、要請・ 陳情活動先	開催場所：両日ともに TKP ガーデンシティ PLEMIUM 金沢 駅西
3. 研修会等の名称 または視察、要請・ 陳情活動内容	5月19日（金）10:00～12:30 研修名：議会改革の視点と展望 14:00～16:30 人口減少に勝ち抜く戦略 5月20日（土）10:00～12:30 人口減少と共存する方策 14:00～16:30 子供条例の現状と課題
4. 研修会等の講師名 または視察、要請・ 陳情活動先の担当者 名	講師 5月19日～20日：牧瀬稔氏（関東学院大学教授）
5. 活動内容	別紙のとおり

1. 報告書は、政務活動終了後2週間以内に提出すること。
2. 活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。



金沢セミナー所感

柳井一徳

5月19日

議会改革の視点と展望 10:00~12:30

井原市議会では議会改革は議会基本条例の見直しを含め適度に行われており、今回のセミナーでは見直しの重要性を強調されていたので、井原市議会には不要と思われた。

本市議会は早稲田大学の林教授のように外部者により見直し箇所などのチェックを行っているのは先進議会で誇れるものであると感じた。林教授より今後もさらに見直す点などチェックいただき議会改革を行わねばならないと感じた。

人口減少に勝ち抜く戦略 14:00~16:30

人口減少は日本全体の課題であり、一自治体で対応するにも限度がある。減少には自然減と社会減があり、移住政策などはどの自治体も行っており、社会減、いわゆる転出をいかに減らすかが人口減少の歯止めになる。そのために『シビックプライド』という市民が住んでいる地域への愛着や誇りという概念で使われるが、こういった愛着や住んで良かったという満足感が大事であることを学んだ。

移住政策のために各自治体はシティープロモーションを行っているが、ターゲットを絞り、また、狙い撃ちした地域を攻めることも必要である。漠然と広範囲や幅広い年齢層のターゲットでは効果はないので、限定して行うべきとのことだった。

5月20日

人口減少と共存する方策 10:00~12:30

人口減少に伴いコンパクトシティ化を進める自治体も多いがこれはほとんどの自治体でうまく機能していない。先祖からの土地を離れられないなど住み慣れたところから離れられない住民に対して説得が困難である。

これからの時代はリモートなどデジタル化がますます進み、いわゆる山の中でも情報収集に困らない時代がやってくるので、生活拠点は自由な考えが広まるのではないかとのことであった。そう考えれば、リモートでの仕事を選択し移住も田舎暮らしで十分という時代が近い将来やってくるのではないかと思う。そうなれば、ターゲットも絞りやすくなる。

子供条例の現状と課題 14:00~16:30

人口減少の課題解決に出生率増など子供に関する政策が必要である。また、子供条例も各自治体にはたくさんあり、井原市議会でも子供に関する条例づくりに努力するべきと考える。

人口が減っていない自治体は子育てしやすい街、教育が盛んな街など特徴がある。本市は子育てに十分な政策を打ち出しているのもっともっとアピールすべきであると感じる。いつも言うように発信力が弱すぎるのは前述のターゲットの絞り方や発信先の選択などが不十分であると考ええる。